

第2回（令和2年度）
学校関係者評価報告書

学校法人常陽学園
専門学校東京医療学院

第2回（令和2年度）学校関係者評価報告書

専門学校東京医療学院では、学校法人常陽学園の建学の精神である「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」に基づき、医療専門職に必要な最新の知識と技術を学ぶとともに、障がいをもつ人々の気持ちを理解し共感できる、優しい心を持った専門職人材を育てることを教育理念とし、その教育活動及び学校運営について自己点検・自己評価を実施しています。

さらに、当校の卒業生、関連業界及び地域住民等からなる「学校関係者評価委員会」を設置し、自己点検・自己評価の結果に基づいた、客観的で公正な評価を実施し、社会のニーズを踏まえた実践的な職業教育の実現を目指しております。

当校の今後の教育活動及び学校運営の改善にあたり、学校関係者評価委員会でいただいたご意見等を公表することで適切に説明責任を果たすとともに、開かれた学校づくり及び関係業界への理解促進並びに連携協力に真摯に取り組みます

第2回（令和2年度）学校関係者評価委員会

<構成員>

委員長：古田 直弥 氏	社会福祉法人浅草寺病院 理学療法士【関係業界・卒業生】
委員：河部 直紀 氏	有限会社総合リハビリ研究所 地域連携推進室室長・事業推進室室長 理学療法士【関係業界・卒業生】
梅村 悟 氏	独立行政法人地域医療機能推進機構 JCHO 東京新宿メディカルセンター 理学療法士【関係業界・卒業生】
事務局：武田 淳史	校長
川崎 孝晃	理学療法学科昼間部学科長
小堺 秀樹	理学療法学科夜間部学科長
福島 豊	学生課長
宮山 泰尚	事務長
束原 毅	事務局（書記）

<学校関係者評価委員よる評価、意見等>

評価項目の目標設定について

事業目標については、文章化による説明に加え具体的かつ客観的な数値目標を設定することにより達成状況が明確になる。例えば退学率や募集状況などに目標とする数値を定めようか。今後の専門学校運営においては他者評価という視点がより一層重要になってくるため、評価者が事業結果を捉え易くなるよう評価表の構成を見直すべきである。

募集活動について

1. これまで社会人入学生の割合が多かった夜間部においても現役入学生の割合が増加し、また女子生徒の割合も増加するなど、受験者層の変化に即した募集活動の展開が求められる。
2. これまでの社会人受験生はいわゆる就労者が多かったが、近年は大学生受験者（大学を卒業する年度に受験する者）の割合が増加している。多様化する社会人受験生への接触機会の確保を図るため、SNS を活用した幅広い広報活動を展開すべきである。新たな活動を展開するにはマンパワーが必要だが、例えば生徒から写真や記事を集めて投稿するなど工夫すれば良い。
3. 理学療法士という職業の認知度は未だ高いものではない。実際に理学療法士に関わった経験がなければほとんど知る機会がなく、高校訪問の際には進路指導教諭にも職業説明が必要なケースがあるとのことだが、募集活動の一環として理学療法士の職業紹介動画を作成し、動画にリンクする QR コードを名刺に載せてはどうか。現役理学療法士としても職業内容を魅力的に広めてもらえれば喜ばしい。

医療現場における新型コロナウイルス感染症の影響について

1. 感染拡大防止に資するため在宅訪問リハビリテーションができなくなるなど事業活動が制限されている面はあるが、新卒採用には大きな変化はなかった。

2. 実習生の受入れに関して医療現場全体における一定の基準はなく、受入れ施設によって対応は様々である。コロナ禍においても教育活動の継続が求められているなか、修学の機会を担保するためにも可能な範囲で感染予防策を継続すべきである。

以上